

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200385		
法人名	株式会社グランファリスナー		
事業所名	グループホーム ひだまりの丘		
所在地	岐阜県美濃加茂市西町7丁目101番地2		
自己評価作成日	令和2年2月28日	評価結果市町村受理日	令和2年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kaisoku_detail_022_kaito:1705&viewosyoCd=2171200385-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

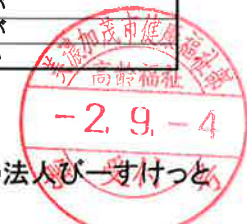
- 1.歌声や笑い声が常に響いている家庭的なグループホームです。
- 2.毎日のラジオ体操、ストレッチ運動に時間をかけ健康と若さを維持できるように支援しています。
- 3.月に2回、音楽療法を取り入れています。
- 4.開設記念の8月には夏祭りを盛大に開催し、ご家族やご近所の方以外にも多く参加していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣住民と交流しながら、利用者が地域の一員として、笑顔で楽しく安心した生活が送れるよう支援している。新型コロナウイルス感染予防の為、外出の自粛や面会の制限など、生活スタイルの変化はあるが、ガラス越しの面会・電話の取り次ぎ・文通の支援など、制限の中でも出来る事を工夫しながら行っている。また、事業所内での体操を継続し、体力と残存能力の維持・向上のため、本人ができることは見守りと声かけで自立支援に繋げている。現在の厳しい状況の中でも、管理者と職員が一丸となって、利用者の穏やかな日常生活支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の業務分担表に理念が記載されており、職員は毎朝目を通し確認している。	運営理念をリビングの目につきやすい場所に掲示し、パンフレットにも掲載している。また、業務に就く前に確認する業務分担表にも記載されており、職員一人ひとりが理念を常に意識して、実践することができるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春は地元の神社の子供みこしの休憩所として利用していただき、秋には地元保育園の運動会に参加させていただいている。地域ボランティアの方々の協力ではうば寿司作りやおはぎ作りを利用者様と一緒に楽しんでいただいている。	新型コロナウイルスの感染予防の為、例年実施されている行事が中止となっている。利用者はガラス越しに、通行する近所の人と挨拶を交わしたり、遊んでいる子どもに手を振るなどして、これまでの繋がりを維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年一回開催の夏祭りに地域の多くの方々が参加してくださっている。施設内には利用者様の作品も多く展示し皆様にみていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度実施している行政、民生委員、近隣住民、利用者様家族の参加をしていただき、活動の報告や参加者との情報交換を行っている。	運営推進会議では、活動内容や事業所の現状を報告し、意見交換を行っている。行政からの情報提供を得て、それらも運営に活かしている。役職の任期終了後も会議に参加されるメンバーもあり、様々な提案や意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へは毎月始めに入居者、待機者の情報を報告している。市の担当者の配慮で利用者様が新聞紙で作ったゴミ袋を活用していただける場を設けていただいている。	行政とは気軽に相談できる関係が築かれており、利用者の状況を報告して、助言を得ながらサービスの向上につなげている。新型コロナウイルスの対応については、メールで資料の提供や感染予防の具体的な助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束にならない介護の方法を話し合い実践している。転倒防止のためにセンサーマットやナースコールを利用している。	職員はケアの中での声かけが、利用者の行動を制限していないか注意しながら、拘束に繋がる状況にならないよう努めている。また、身体拘束について正しく理解し、拘束をしないケアを実践している。申し送り時やカンファレンスで、利用者一人ひとりの情報を共有し、寄り添う支援に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや態度等、職員同士で注意し合うように心かけている。その時のニュースや新聞記事などで検討し話し合いをしている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に職員が参加出来ていない。十分に理解出来ていないため社内での勉強会も未だ実施されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には契約書全て読み上げ、料金改定時には、家族に新、旧の料金表を見ていただき直接説明を行い理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には常に声をかけ要望を引き出す努力をしている。ご家族には面会時や電話の際に意見や要望を聞く時間を設けている。	職員は、生活支援の中で、常に利用者の話を聞くよう努め、意見や要望を把握するようにしている。毎月の利用料は、家族が事業所に持参する仕組みになっており、写真付きの「ひだまりにゆーす」で利用者の様子を報告しながらコミュニケーションを図り、家族の意見や要望を聞き出し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案や気づいた事はすぐみ把握できる体制が出来ている。全職員が情報を共有出来るよう気づきノートを設けて活用している。	管理者は介護職と兼務しており、現場の状況を把握している。職員の意見に耳を傾け、気持ちに寄り添い、信頼関係を築きながら、職員が話やすい雰囲気作りに努めている。また、「気づきノート」で利用者の情報や提案等を自由に記入してもらい、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、人材不足や体調不良等で勤務体制に無理が生じており、一人一人の就業時間の確認をしながら勤務表を作成している。処遇改善加算もついても支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材不足や職員一人ひとりに合った研修に参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネット会議に参加し他施設の情報や意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人への声掛けを多くし、その方の生活歴を聞いたりして安心してもらえるような関係を作る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族に入所後の希望、要望を聞いている。利用料の支払いについては、現金持参をお願いし支払いに来て頂いた際に話ができる時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望があった時は、可能であれば本人も施設見学をしてもらい、必要性等検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、おやつ準備、作品作りなど一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が抱える悩みや心配事も話し合える信頼関係を築ける様に面会時などにコミュニケーションをとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の許可を得たうえで友人、知人の面会や電話、手紙のやりとりを受けている。	新型コロナウイルス感染予防対策の為、家族との直接の面会は禁止しているが、ガラス越しに声が聞こえる環境での面会を実施している。また、知人と文通している利用者には、馴染みの関係が途切れないよう継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と座る席を近くしたり、同じテーブルにする等の配慮をする。又、レク中などすべての方が関われる様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にその後の不安、相談があれば対応するよう説明し、退所後も夏祭りへの行事に参加していただけるよう声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や訴えをされる方は少ないが、生活歴を聞きながら本人の意向を組み取り、家族等に対応をお願いしている。	入居時には、詳細にアセスメントを行い、本人の希望や意向を把握している。日常のちょっとした行動や呟きからも情報を得る努力をしている。本人と家族から把握した情報は「気づきノート」を活用して、職員間で共有し本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込みの際や入所後に家族や本人からこれまでの生活歴を聞き取り、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り、バイタル測定状況を把握して、健全な1日が送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の意向を聞き、職員間で意見を交換、検討をし、その方のプランの作成ができるよう努めている。	介護記録と職員や関係者への聞き取りを参考に、モニタリングを行っている。利用者と家族の意向を確認して「介護計画案」を作成し、サービス担当者会議で検討後、利用者と家族の同意を得て、介護計画を作成している。状態に応じて見直しを行い、職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の他、気づきノートにより全職員への周知をし、プラン等へも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の代行や通院など、家族が対応できない所の支援をしている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に数回、いきいきボランティアに来て頂く。夏祭り、おはぎ作り、棒葉寿司作り、演奏会、手品などの訪問ボランティアをお願いし、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回、連携医の往診があり、健康管理を受けている。その他、特変があったら場合は、連携医に相談をし対応している。	本人と家族が希望するかかりつけ医を受診している。協力医の往診は月1回あり、それ以外でも、相談をしたり助言を得ることができ、利用者の健康管理に努めている。協力医以外への受診は、家族同行としているが、病状や質問などを記載した文書を家族に渡し、受診結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員のうち1名が看護師で、情報を把握し、異常があった際は、かかりつけ医に連絡し、指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供書を作成し、提出している。退院時には、利用者の現状を把握し、病院関係者から情報を得て連携し、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に、状況にあわせて他の施設への転出等の必要があることを説明し、了解してもらっている。	契約時に重度化や終末期の対応について、本人、家族に説明し、同意を得ている。状態に変化があった場合には、その都度、利用者や家族・関係者で話し合い、適切に対処しながら、不安にならないよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は行っていない。急変時は、できる範囲で行っている。救急時のマニュアルは、電話の傍に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、通報訓練を行っている。平日に行っているため、ご近所の協力は難しいが、ボランティアの方への参加をお願いしている。	年2回、防災訓練を実施している。訓練後には、課題点について検討し、改善に取り組んでいる。災害時の持ち出しリュックサックは、事務所の目に付く場所を定位置とし、非常時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際は気を付けているが、時に声が大きくなるため、注意しその方にあった声掛けができるよう心掛けている。	日々のケア時の気づきを職員同士が話し合いながら、統一したケアを実践している。利用者への声掛けの仕方や無意識に不適切ケアを行っている事はないか、互いに注意喚起し合い、利用者の人格や誇りを損なうことのない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ等は、選択しを出して決めるようにしている。決定する枠を広げ、可能な限り、自分で決定ができるよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常生活をおくって頂きながらも、静養など、本人の希望に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる身だしなみ(髭剃り、ブラッシング)は、して頂いている。衣類に関しては、清潔な身だしなみができる様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はしていないが、おやつのは準備はしてもらっている。おはぎ作り、棒葉寿司行事の時は、自分の分は自分でつくり楽しんでもらい、季節を感じてもらっている。	食事は利用者の体調に合わせて提供している。新型コロナウイルス感染予防の為、外食やおやつ作りなどは中止している。状況を見て、飲食店の協力の下で外食の再開や、自分の飲み物を作るなど、内容を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調に合わせた食事量の調節を行っている。水分は、色々な飲み物を、十分に摂取できるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科の診療を受けられている方がいる。毎食後のうがい、食事の口腔ケアは必ず行っている。又、食事前の嚥下体操を実施している。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ指導の他、本人の訴えの際には、介助を行っている。排出能力が低下してみえる方でも、現状を維持できる様、支援していきたい。	利用者の排泄状況を記録して排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。また、利用者の自信にも繋がるよう介助を行い、排泄能力の維持・向上に努めている。排泄用品は、利用者の状態にあったものを選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を行っている。乳製品の摂取をしてもらい、排便日の確認を一人一人毎日確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴が基本で、タイミングが合わなかった方は、日にちを変えて入浴している。入浴拒否や出来なかった方には、清拭、足浴等で清潔保持を支援している。	入浴は週2回、曜日を決めているが、利用者の体調に合わせて柔軟に変更している。職員との会話を楽しみながら個浴で入浴する人や、利用者の残存能力に合わせ、手を出し過ぎることなく、本人ができることは見守りで自立支援に繋がるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に添った休息の支援を行い、室温、部屋の明るさ、寝具も本人の希望の物を利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方されたときは、気づきノートにより職員全員に周知し、状態を観察している。服薬の際には、日にち、名前を読み上げ飲み終えた袋も職員がチェックしてから処分している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ、居室の掃除、新聞紙でのごみ袋作り等、毎日の楽しみ、やりがいになっている作業を続けて頂いている。週末のおやつは手作りのメニュー表から好きな飲み物を選んで飲んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の健康状態に合わせて、外出の支援をしており、家族の協力が得られる方は外出、外食、外泊に出かけられている。	利用者の状態に合わせた外出支援を行っていたが、現在は新型コロナウイルスの影響で、外出を控えている。室内にいても季節がわかるよう、リビングの壁には、利用者職員で季節感ある飾りを作成し掲示している。また、テラスで昼食やおやつを食べる日を設け、利用者の気分転換を図っている。	新型コロナウイルス感染予防の為、外出を自粛中である。今後も、テラスを利用する外気浴、駐車場や庭を利用するなど工夫し、今、出来る事の支援継続に期待したい。

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛に手紙が届いた際には、本人が返事を書いて返信している。家族から電話がかかり希望があれば本人に代わり話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設感を取り入れた飾りつけや壁画作りをしたり、季節を感じていただけるようにしている。寒い時期は床暖房をかけ温度調整、空気の入替えを行っている。フロアの椅子はすべてひじ掛けのあるものを使用している。	居間は広く、音楽療法で使用するピアノを置いている。天井も高く開放的で明るい。肘掛け椅子やソファなど、好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。危険なく移動できるように動線を考え、配置している。壁には利用者の作品や職員との共同作品の掲示し、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、好きな席に座り話をされたりテレビを見たりして居心地の良い場所をそれぞれに見つけられ過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや日常にお参りしてみえた遺影を置いてもらったり、家族写真やぬいぐるみ等が飾ってある。	居室には、利用者の使い慣れた日用品も持ち込まれている。家族からの手紙やぬいぐるみ、職員からの誕生祝いの色紙などが飾ってある。また、箆の上には家族の位牌や遺影を置き、朝晩の礼拝を日課にしている人もあり、くつろげる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境を利用者様の身体状況に合わせている。ベット柵の補助柵の必要な方は、設置させていただいたり、居室も間違えないよう名前を表示している。杖や押し車の車椅子を利用してみえる方もある。		